

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

第36回放魚祭

台風一過の去る7月29日(金)午前10時より第36回放魚祭(主催:(社)香川県水産振興協会・中讃地区漁業組合連合会・香川県漁業協同組合連合会・香川県信用漁業協同組合連合会・(財)香川県水産振興基金 協賛:香川県・坂出市・丸亀市・宇多津町・多度津町)が、夏空のもと坂出市番の州の瀬戸大橋記念公園において香川県の泉出納長、松浦坂出市長ほか水産関係者約100名が出席し盛大に開催された。これからの豊漁を祈願してベラ5万尾・ヒラメ1千尾・メバル1千尾・マダイ1千尾・タケノコメバル500尾が放流された。また、事前放流として7月20日(水)に坂出市地先においてクルマエビ6万尾を放流した。式典は、瀬戸大橋記念公園マリンドームで行われ厳かな神事のあと主催者を代表して服部会長が、「稚魚愛護・資源管理の精神を当地坂出市から全国に発信し、豊かな備讃瀬戸をよみがえらせることを願っております。」と挨拶した。その後、中讃地区漁連洲賀崎会長、来賓の泉出納長他の方々からの挨拶があり、続いて、地元坂出市立瀬居幼稚園の園児13名に放流稚魚のお手渡しが行われた。



稚魚を放流する園児

また、式典終了後、大漁旗で彩られた放流会場の瀬戸大橋記念公園西側の浮き桟橋で式典出席者と地元園児等の子供たち55名が坂出市議会香川議長の合図で稚魚の放流を行った。放流終了後、会場に集結していた県漁業指導船「ことぶき」、多度津水産高

校実習船「たどつ」、中讃地区の各漁協漁船が順次出港し、列をなして巡航し、その後地元地先に帰り、稚魚の放流を行った。地元市町・漁業者の皆さんの協力を得て開催した放魚祭は、盛況のうち無事に閉会した。来年度、第37回放魚祭は三豊地区において開催予定。

香川県水産業基本計画が策定されました

平成17年6月香川県議会定例会において、7月11日に香川県水産業基本計画案が可決されました。

県の水産施策については、平成13年3月に策定した「香川県水産業基本計画」に沿って展開してきたところですが、この間、サワラ資源の着実な回復や漁港・漁業関係施設の計画的な整備、タケノコメバルやイタボガキなどの新たな種苗の生産技術の開発など、多くの成果が得られています。

しかしながら、海面漁業・養殖業生産の低迷や担い手の高齢化と減少が依然として続いており、水産物の安全・安心への関心の高まり、消費者ニーズの多様化・高度化、環境の変化に対応した試験研究の充実など、新たな課題も生じてきています。

これらに対応し、今後とも一層、水産業の振興と漁業地域の活性化を図っていくため、1年前倒しして現計画を見直し、新たな「水産業基本計画」を策定しました。

この計画は、引き続き「自然と調和したゆとりある水産業づくり」、「うるおいとにぎわいのある漁業地域づくり」をめざして各般の施策を推進することとしており、具体的には、優良な水産物の安定供給体制づくり、効率的な漁業経営の推進、担い手の確保と経営基盤強化の推進、安全快適でにぎわいのある漁業地域づくり、良好な水域環境の保全の5つの重点推進事項について積極的に施策を推進していきます。

また、この計画を推進していくためには、行政と漁業者、水産関係団体などが連携・協力しながらそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。

そこで、計画に掲げた目標の実現に向け、新たに主要な課題ごとの数値目標、市町や水産関係団体、漁業者との役割分担や具体的な取り組み内容を明確にした進行管理表を作成し、計画の着実な推進を図ってまいります。

1. 前計画の成果と課題

(1) 前計画(平成13年~16年)の成果と課題

【前計画での課題】

【前計画の成果】

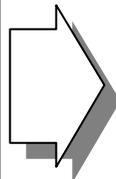
<p>1. 優良な水産物の安定供給体制の確立</p> <p><u>海面漁業・養殖業生産量</u></p> <p>74千トン 65千トン (15年/14年比) 17%減</p>
<p>2. 効率的な漁業経営の実現</p> <p><u>海面漁業・養殖業生産額</u></p> <p>307億円 270億円 (15年/14年比) 10%減</p>
<p>3. 担い手の確保と経営基盤の強化</p> <p><u>漁業就業者数</u></p> <p>4,150人 3,636人 (15年/14年比) 8%減</p>
<p>4. 安全快適でにぎわいのある漁業地域づくり</p>
<p>5. 良好な水域環境の保全</p>



<p>水産試験研究の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進計画として「香川県水産試験研究計画」を策定(平成13年4月) ・漁業調査船「やくり」の代船建造 ・タケノコメバシ・イタボガキの種苗生産技術の開発 「食の安全・安心基本指針」を策定(平成16年4月) ・行動計画として「農林水産物の安全・安心確保計画」を策定
<p>さわら資源回復計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわら資源回復実施計画の推進 <p>サワラ漁獲量 36トン(12年) 85トン(15年) 136%増</p>
<p>指導・青年漁業士数</p> <p>113人(12年) 119人(15年) 5%増</p> <p>沿海地区出資漁協数</p> <p>49漁協(14年) 40漁協(15年) 18%減</p>
<p>漁港・漁業関係施設整備か所数</p> <p>31か所(12年) 36か所(15年) 16%増</p> <p>産直の取り組み数</p> <p>11件(12年) 13件(15年) 18%増</p> <p>漁業体験の取り組み数</p> <p>14件(12年) 18件(15年) 29%増</p>
<p>ガラモ場造成面積</p> <p>2.6ha(12年) 5.8ha(15年) 123%増</p> <p>「漁場改善計画」の策定</p>

(2) 前計画期間中の“できごと”と課題

<p>トラフグ養殖でのホルマリン不正使用事案(15年4月)</p> <p>赤潮による養殖ハマチ・カンパチの大量死被害(15年7月、16年7月)</p> <p>台風・高潮(16年6月~10月)による災害の多発</p>



<p>水産物の安全・安心への関心の高まり</p> <p>消費者ニーズの多様化・高度化への対応</p> <p>試験研究の充実(環境保全)</p> <p>災害・環境変化等への対応</p>

2. 新計画の基本的考え方

新計画
 現行計画期間中に生じた新たな課題に対応できる施策を講じることが必要
 現行計画で実施していた施策の一層の発展、深化、重点化が必要

(1) 新しい課題への対応

<p>【新しい課題】</p> <p>水産物の安全・安心への関心の高まり</p> <p>消費者ニーズの多様化・高度化への対応</p> <p>試験研究の充実(環境保全)</p> <p>災害・環境変化等への対応</p>



<p>【対策】</p> <p>水産物の安全確保と安心の向上</p> <p>消費者ニーズに応えるブランド水産物の開発と多様な流通体制づくり</p> <p>試験研究体制の整備と機能の高度化</p> <p>経営基盤の強化と災害に強い水産基盤づくり</p>

(2) 本県特有の課題への対応

【本県特有の課題】 *12 年は現行計画策
定年

水産資源の減少と水産物価格の低迷

- ・海面漁業・養殖業生産量
(15 年 / 12 年比) : 88%
- ・海面漁業・養殖業生産額
(15 年 / 12 年比) : 88%

担い手の高齢化と減少

- ・漁業就業者数
(15 年 / 12 年比) : 88%

漁協組織基盤の弱体化

- 1 漁協あたり事業収支 (12 年 14 年)
: 500万円 900万円

漁業地域の活力低下



【対策】

水産種苗の生産・放流と水産物のブランド化の
推進

- ・資源回復計画の推進と養殖の多様化、経営の
効率化

優良な担い手の確保と高齢者や女性の活動促
進

- ・漁業技術研修の推進と新技術の定着促進

漁協合併の推進と水産関係団体の機能強化

多様な地域資源を活用した漁業地域の活性化

- ・ブルー・ツーリズムの推進

3 . 新計画の目標と重点推進事項

【新計画の目標】

地域に根ざした活力ある香川型漁業の確立

< 自然と調和したゆとりある水産業づくり >

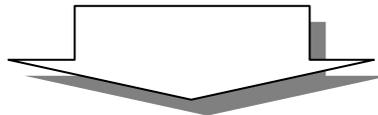
水産資源の増大と適正な管理、合理的な利用のほか、地域資源の有効活用による優良な水産物の安定供給
を推進

県産水産物のブランド化と水産物情報の発信による地産地消の推進

< うるおいとにぎわいのある漁業地域づくり >

漁協基盤の強化と担い手の確保・育成を進め、ブルー・ツーリズムの推進等、漁業地域の多面的機能の発揮を
促進

漁業地域の就労、生活環境の整備を進め、高齢者や女性の活動を促進



【新計画の重点推進事項】

1 優良な水産物の安定供給体制づくり

- ・積極的な種苗放流による資源増大と養殖魚種の多様化による養殖生産の拡大対策を推進
- ・水産物の安定供給の基礎となる試験研究の推進と水産物の安全・安心の確保対策を推進

2 効率的な漁業経営の推進

- ・資源管理型漁業や栽培漁業の推進と養殖業の安定化対策を推進
- ・流通の多様化、水産物のブランド化による価格の安定対策を推進

3 担い手の確保と経営基盤強化の推進

- ・新規就業者や中核的な担い手、高齢者や女性など幅広い担い手対策を推進
- ・漁協の合併促進と水産関係団体の機能強化対策を推進

4 安全快適でにぎわいのある漁業地域づくり

- ・漁業地域の生活、就労環境の整備を促進
- ・都市漁村交流の促進によるブルー・ツーリズムの取り組みを推進

5 良好な水域環境の保全

- ・県民意識の啓発と環境の監視、保全対策を推進
- ・積極的な藻場造成による水質環境の改善対策を推進

第48回香川県漁協女性部大会開催

去る7月12日(火)午前9時30分から漁連会館6階大会議室において、県下漁協女性部から約200名の部員他が参加して、第48回県漁協女性部大会が開催された。

まず最初に、漁協女性部綱領唱和を全員で行い、岡田女性連会長、服部信漁連会長より主催者挨拶、真鍋県知事、野口農林中央金庫高松支店長より来賓挨拶の後、表彰式が行われた。

女性連会長表彰...鴨庄漁協女性部
信漁連会長表彰...東讃漁協三本松女性部

活動実績発表では、本島漁協女性部 松成幸子氏が「植樹を通じた女性部活動の活性化～山火事からの復活を目指して～」と題して、発表を行った。

次に大会決議を行い、各漁協女性部において次の決議事項を実践していくこととした。

(決議事項)

1. 暮らしの見直しと健康管理活動の推進
2. 天然石けん使用推進運動の強化
3. 魚食普及活動の推進
4. 漁協事業への積極的参加

特別講演では、四国学院大学社会学部社会福祉学科 教授 渡邊 顕一郎氏を迎え、「これからの子育て支援 - 女性のパワーへの期待 - 」と題して講演を行い、最後に鴨庄漁協 山本組合長による万歳三唱にて大会は盛会に終了した。



岡田女性連会長挨拶

日本赤十字社より金色有功賞受賞

7月27日香川県社会福祉総合センターにおいて開催された香川県献血運動推進大会において、日本赤十字社 真鍋武紀支部長より本会の平素の献血推進活動に対し、金色有功賞が授与された。

学生募集

(基礎コース)平成18年度 第67期

全国漁業協同組合学校

JF(漁協)を担う若きリーダーを育む

修業年限 1年・全寮制 定員50人(男女共学)

願書受付 平成17年12月1日～平成18年1月16日

入学選考 平成18年2月10日

各都道府県漁連・県漁協

連絡先 全国漁業協同組合学校

〒277-0854

千葉県柏市豊町1-4-5

TEL: 04-7144-8125

<http://www.jf-net.ne.jp/kumiaigakkou/>

主な行事予定(8/1～8/31)

8月 2日(火) 餌飼料と水産用医薬品の適正使用に関する研修会

4日(木)～5日(金) 2級小型船舶免許講習会

13日(土)～15日(月) 盆休み

26日(金) かん水組合通常総会